

こころ日記「ぼちぼち」④

まちの保健室の役割

地域の子ども・若者の居場所「まちの保健室「ちむちむ」」を開室して6年がたった。

主な活動は月2回の開室、相談がある人は予約制で無料。性に関わるからだやこころに特化しているので、たくさんの方が来室するわけではないが、少しずつではあるが、保健室の存在が知れるようになってきた。

保健室は2年間自治体の助成金をもらったので、子どもに関わる悩み相談のリストとして登録されている。そのことでも認知度が上がってきたのだと思う。喜ばしいことだ。

他の活動として、年5回の「すべての人のための性と生の基礎学習講座」を開催している。年間累計約70名以上の人たちがこの学びに参加している。参加者の職種は、教員、SSW、学校のSC、行政の子ども支援課職員、発達障害に関わっている人、障がい児・者施設職員、養護施設職員、学童指導員、放課後データービス支援者などだ。中には思春期の子どもを持つ親の参加もある。

内容は、今よく聞く「包括的性教育」について、子育ての中の性教育、障がい児・者の性教育など。参加理由を尋ねると、口々に性についての学び場がなく困っていると返ってくる。多くのおとなが、科学的なことを含め性のことをちゃんと学んでこなかった現実、ため息しか出てこない。

最近は発達相談センター、障がい者施設などからの相談も増えている。

思春期にはたいていの子どもは、からだや心が成熟していき、二次性徴を迎える。しかし発達に障害がある子や様々な障

がいのある子どもの思春期について、どうも支援する側の大人の理解度がとても低いと感じる。そういった子どもたちには、二次性徴が来ないと思っているのか、来ないほうがよいと思っているのか、と考えてしまう。

悩み相談の多くは、人との距離感で困っている、施設内での恋愛行動、性被害、性加害がほとんど。

このような問題は、障がい児・者の施設では昔からよくある事例だと言われるが、いつまでもそのようなことが、支援する人たちの困りごととして継続されてよいはずはない。何が問題で、何に困っているのか、本当に困っているのは誰なのかを考えなければならないと思っている。

「恋愛どうする？結婚どうする？」

今、知的障がいのある青年たち7人のサークルに関わっている。青年と言っても平均年齢は40歳そこそこ。昔青年だった人たち？40代から70代後半までの男性ばかりで、正直おっさんサークルだ。結成して16年になるという。結成のきっかけは、自分たちの未来について考え実践していくこと、楽しく生きるためのノウハウを身につけることなどさうだ。月一回の会議を持ち、年一回は福祉関係の大学に出向き、一泊二日の学生との研修と交流会を開催している。私たち保健室メンバーも、彼らの活動場に出向き、性に関する話をすることがある。

先日、「恋愛どうする？結婚どうする？」というテーマで勉強会を開くというので、誘いを受けた。ぜひアドバイスなどしてもらえると嬉しいとのことで参加した。

「恋愛について、日ごろ思うことを語ってみよう」というテーマから始まった。

司会進行は、二代目代表の H さん。

★今までに恋愛したことがある人は？

「あれが恋愛だったかどうかわからないけど、過去に好きな人と話すことはあったな」

★じゃあ恋愛するきっかけってどんなことがあるかな？どうやって出会う？

「ヘルプで出かけた先で、同じヘルプ利用者とばったり！なんて」

「作業所の仲間」

「カラオケで出会った人」

「SNS、ネットサークルでの出会い」

「居酒屋」

「旅先で…出会うかも」

「でも、正直作業所では、人とは話さない、特に男女口を利いてはダメと言われることがあるからなあ」

「マッチングアプリは、ちょっと怖い。障がいがある人が、よく騙されたりしているから」

★恋愛、結婚のこと考える？

「恋愛はしたいけど、きっかけがない」

「しゃべるくらいはできるけど、そこからどうなるかどう発展するのか？何を話せばいいの？」

「恋人は考えないけど、遊び相手がほしい」

「恋愛の先に、結婚は当たり前のようになっていくと思う。結婚の形にも悩む。一緒に暮らすの、別々など…」

「彼女ができたなら、映画や食事もしたいな」

「やっぱり友達、仲間と違う特別なつながりがほしいな。彼女がほしい」

「結婚、恋愛は自由をうばわれるとよく聞くけど、どうなん？」

「まあ結婚するかしないかは、その人の自由だな」

「今度は結婚したい！今から色んなことが始まるから楽しみ！」

「一緒に時間を共有できるのがいいな」

今回の恋愛や結婚をテーマにした話し合いは、初めてだったそうだ。今までサークルでは、仲間同士でもそのような話はしなかったという。

一人ひとりが口々に語る恋愛談義に花が咲き、聞いている私たちも、思わず突っ込

んで質問したり、アドバイスをしたり、笑ってしまう場面もあった。その後、デートのシュミレーションをして、大いに盛り上がったのだった。

最後に具体的なことを考えることになった。結婚しなくても、一緒に暮らすとなればどんな準備がいるかな。家事は誰がするのか？経済的なことは？お互いの家族への理解は？子どもは持つの？などなど、どんどん話が膨らんでいく。できる、できないは別にして、想像してみるものの大切さを共有できたひとときだった。

彼らの一人ひとりの環境は違う。実家にいる人や、グループホームで暮らす人。働く場所も家族も様々。お酒が好きな人、タバコが好きな人、ユチュウバーとして発信している人などなど…。

ほとんどの人は、一人では出かけられない。しかし社会的資源をうまく使いながら、できるだけ自分のしたいことを実践している。そしてもう若くはない彼らは、今でも恋愛や結婚にあこがれを持っている。未来について思うことがたくさんあるのだということが、伝わってくる。良い出会いがあるといいなと思う。

勉強会のあと、40代の R さん、

「親を安心させるために結婚したい。子どももほしい。今は実家暮らしだけど、グループホームにいたから、家事はバッチリ！でも、なかなか出会いが…」

30代後半の S さん、

「うちの母親はうるさいねん。デートしたら絶対ついてくると思う。信用されてないねん」

今年 50 代になり糖尿が心配な M さん、

「俺の部屋汚いからな、友だち呼べへんねん。しかも恋愛の話はするなって親から怒られるし…」

いろいろだな…。

サークルの今年の目標は、今後も継続できるように、若い仲間を増やすことだと聞いた。素晴らしいことだ！

つづく